

移ひなき上しく出越し玉ひて和睦と云さぬ中款ま
河内、照宗公は承引成され依て照宗公の奥方、義光の
姉君とされ、義光と色く以てとき有しゆ、和睦あり
輝宗也
照宗公置賜其方の城へ以て飲成されける

本文の上山城主筑前守義政一説義完物語より梁川左京
大夫満兼と一説里見日向守満兼と一説筑前守
義政と一説兵部大夫満兼として諸説まちなり
上に上山城主代々記と年代を合する時、本文の義政
成りしとされ、上山城主代々記の武永義政あり
按に里見日向守満兼と云ふ事満兼、天童の城主

里見家二代伊豫守頼泰の次男日向守満兼始て
上、山龜岡又居城、又里見元祖頼直の三男満長
の子満兼ともあり、頼直、正應三年に没せし人あり
其人の孫として七年代名に隔たりしを義政と満兼
とを書誤りしものなる羅ん

み一説伊達輝宗の本を仙臺と云ふ、政宗に至て仙臺を居城
故に照宗が勢力を仙臺と云ふものあり、輝宗の時置賜郡
長井庄夏新に居城し、天正十二年十月八日畠山義隆の爲
に害に遭ふて没す時、四十二歳仙臺城、政宗、慶長六年
に城築ありしあり